

リンパ管細静脈吻合術の治療施設と乳腺専門クリニックとの術前術後における連携体制について

赤羽乳腺クリニック

副田さつき、三階文代、赤羽和久、杉野知美、寺田智子、山口温子、藤田美幸、後藤陽子、徳倉裕美

JR 東京総合病院

三原誠

名古屋第二赤十字病院

室田かおる、林真奈美、石間伏由紀、績木美樹、前泊聖実、吉川明海

【はじめに】当院では、乳癌術後患側上肢リンパ浮腫例で、積極的に複合的治療を行っても改善が軽微な例や、蜂窩織炎を発症する例に対しては、リンパ管細静脈吻合術（以下、LVA）も治療選択肢として紹介している。今回、当院より LVA 実施施設へ紹介した例より今後の課題を検討した。【対象と方法】2017年5月から2019年7月までに当院でリンパ浮腫の複合的治療を行った患者で、積極的に介入しても改善が軽微な方や、蜂窩織炎を発症した方ならびに LVA を強く希望した方を LVA 対象とした。全例にリンパ管シンチグラフィを撮影し、弾性包帯や多層包帯に対する圧迫圧の検討やケア法を工夫するとともに、体重管理ならびに生活習慣の指導を行った。LVA 前後での周囲径・蜂窩織炎発症頻度・リンパケア介入頻度を評価した。【結果】LVA 対象者に対し、術前のケアは当院で実施し、LVA 手術は他県の A 病院で実施した。術後は A 病院で執刀した医師が非常勤で勤務する近隣の連携施設である B 病院で経過観察ならびにケアを行った後に、後方支援施設として当院でその後のケアを継続した。当院と B 病院では連携システムを活用して合同カンファレンスを行い、リンパケア対象者の情報共有を行っている。7 名に LVA が施行された。全例にリンパ管シンチグラフィを施行し、タイプ 2 が 2 名、3 が 3 名、4 が 1 名であった。手術を施行した 7 例では、シンチグラフィ撮影日から手術までの待機期間の中央値は 335 日間であった（290 日～395 日）。この間のリンパケア介入は中央値 3 回（0 回～9 回）であった。術後は B 病院でのケアを実施してから当院を受診する例が 2 例、術直後に蜂窩織炎を発症し直接当院でケアした例が 1 例あった。全例で LVA 後に周囲径が改善し、リンパケア介入頻度が低下した。【考察】LVA は専門的な技術と知識を持ったスタッフによって術前後のケアを行う必要があり、限られた施設でしか行えない。LVA 実施施設を求め、遠方の医療機関を受診する例もある。また、がん診療連携拠点病院では複合的治療加算の問題から患者のケア・ニーズに応じたケアが困難となることもしばしばである。LVA 術前後では患肢の変化や術後の経過観察のために個別対応が必要となることが多く、連携システムを利用して専門クリニックでの術後管理とケアを組み合わせることは、患者ニーズを満たすだけでなく、安全な術後経過の一助となり得る。